

1. 心のクリニック活動報告 (2004年9月 - 2005年8月)

1) 心のクリニック運営体制

(1) スタッフ構成

2004年3月までは、創刊号活動報告で示したとおり、相談員9名（本学心理学科専任教員7名、非常勤相談員2名）、院生相談員19名（M1 10名、M2 9名）、事務職員1名で運営してきた。2005年4月新館での活動が始まって以降、順次スタッフを補充し、2005年8月末の段階では、表1に示すスタッフ構成で運営している（2005年度スタッフ名簿は3.にて示す）。

表1 スタッフ構成

相談員		研修相談員	院生相談員		事務職員	計
本学教員	非常勤		M1	M2		
7	8	1	10	9	2	37

(2) 施設について

2004年3月までの施設紹介は、創刊号活動報告で示した。新館である地域支援心理研究センターは3階建てで、心のクリニックの主な使用部分は、センターの1、2階である。

(1階)・事務室および受付

- ・フレイルーム 2室

(2階)・相談室 3室

- ・心理検査室 1室
- ・資料室 1室
- ・集団カウンセリング室 1室
- ・スタッフルーム 1室

(センターの詳細な見取り図は、追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要創刊号を参照されたい)。

(3) 心のクリニック相談員会議

心のクリニック相談員会議は、1週間に1度開催し、相談員のうち本学教員（必要に応じて事務職員も参加）がクリニック運営や院生の臨床教育について協議を重ねている。現在のところ、定例会議は毎週月曜日に1時間30分から2時間程度開催している。

(4) インテーク・カンファレンス

新規で受理する予定のケースについては、受理することが適切かどうか、インテーカーの人選、その他注意事項等を検討し、すでに受理したケースについては、ケースの概要が報告され、継続担当者の人選、初期の見立てと面接方針等を検討する。参加者は、相談員（本学教員2～3名、非常勤相談員1～2名）、院生相談員（可能な限りM1、M2とも全員）、記録者となっている。

(5) 研修相談員制度について

研修相談員は、臨床コース修了者で臨床心理士の資格取得を目指す者、ないしはそれと同等以上の学力・経験をもつ学外者で、臨床研修を希望する者がいるときにおくことができる。

2) 相談活動について

(1) 開室時間

開室時間は、午前10時から午後5時（月曜日から金曜日まで）である。

(2) 相談件数

①電話相談および問い合わせ件数

電話による相談と問い合わせ件数を、表2に示した。連携機関・学校関係からの紹介や、新聞記事・本学HP等から心のクリニックの開設を知り、連絡を取ってこられる方が多かった。44件のうち約半数である21件がインテークにつながっている。

表2 電話相談および問い合わせ件数

内訳	インテーク	他機関へリファー	電話のみ	その他	計
件数	21	1	8	14	44

②新規相談受案件数

新規相談受案件数を、表3に示した。この1年間に、合計68件の新規ケースを受理した。年齢層に偏りがあるのは、当クリニックが幼児を対象とした集団遊戯療法「にこにこ教室」（週1回）を開催しているためで、幼児層とその保護者層の年代が多くなっている。

表3 新規相談受案件数

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
件数	18	3	16	0	20	11	0	68
%	26.5	4.4	23.5	0	29.4	16.2	0	100

③受理面接以後の経過

受理面接後の経過を、表4に示した。「経過観察」はインテーク後あるいは一定期間の通所後、必要に応じて通所を再開できる状態につながっているケースであり、これに「継続」ケースおよび「終結」ケースを加えると79.4%となり、当クリニックが比較的高い割合で来談者と良好な信頼関係を築けていると考えられる。また、「インテークのみ」とは、料金や通所曜日・時間の面で調整できなかったケース、あるいはインテークの場で自分の悩みを話したことによって継続する必要がなくなったケース等である。

表4 受理面接以後の経過

内訳	インテークのみ	経過観察	中断	継続	リファー	終結	計
件数	7	7	7	29	0	18	68
%	10.3	10.3	10.3	42.6	0	26.5	100

④来談者実人数と年齢層

この間の来談者実人数と年齢層を、表5に示した。2004年9月以前に受理面接をして継続中のケース（16名）があるため、来談者実人数が受理面接の件数より多くなっている。7～12歳の小学生のケースが少なく、19～25歳の青年期と61歳以上の高齢者ケースはなかった。

表5 来談者実人数と年齢層

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人数	25	4	16	0	27	12	0	84
%	29.8	4.8	19.0	0	8.3	14.3	0	100

⑤来談者実人数と居住地域

来談者実人数の居住地域を表6に示した。本学の所在地である茨木市居住の利用者がもっとも多く、次いで北摂近隣地域（高槻市、吹田市、豊中市、箕面市）であり、八尾市や堺市からの利用もあった。

表6 来談者実人数と居住地域

居住地	茨木市	高槻市	吹田市	豊中市	箕面市	大阪市	八尾市	堺市	計
件数	58	8	5	5	2	3	2	1	84
%	69.0	9.5	6.0	6.0	2.4	3.6	2.4	1.2	100

⑥相談内容別相談件数

相談内容別相談件数を、子ども（18歳未満）と成人（18歳以上）にわけて、それぞれ表7-1と表7-2に示した。成人の相談内容は、ほとんどが「子どもについての相談」であった。

表7-1 子ども（18才未満）についての相談内容

相談内容		件数	内訳
発達の問題		19	
内訳	（言語）発達の遅れ		13
	自閉症スペクトラム障害		5
	学習上の問題		1
情緒面の問題		12	
内訳	親子関係の問題		4
	園・学校不適應		1
	不登校・保健室登校		1
	社会性・行動の問題		6
心身症状		14	
合計		45	

表7-2 成人（18才以上）の相談内容

相談内容	件数
子どもについての相談	34
家族関係	3
性・異性関係	1
スーパーヴィジョン	1
合計	39

⑦月別面接種別来談人数（延べ人数）

月別に面接種別ごとの延べ来談人数を表8に示した。2004年度は設備やスタッフ人員の関係上、集団遊戯療法「にこにこ教室」を中心に相談活動を行ってきたが、2005年度になってからは徐々に個別ケースも増加の傾向にある。2004年度1月～3月および2005年度4月に来談人数が極端に減っているのは、2004年度後半期の「にこにこ教室」が12月で終結になることと、新館への引っ越し準備および新館でのオープン準備等のためである。

表8 月毎の面接種別来談人数（延べ人数）

面接種別	2004年度						2005年度						計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
受理面接	1	19		1	2			1	15	17	9	3	68
心理検査					1				1	1			3
集団遊戯療法	(子)	4	33	33	37	4			16	21	14	6	168
	(親)	4	28	28	31	4			16	21	14	6	152
個人遊戯療法	(子)	1	2	2		1			7	19	17	13	62
	(親)	1	2	2		1			7	19	17	13	62
並行カウンセリング	(子)										8	1	9
	(親)									1	14	1	16
カウンセリング		4		3	1	2				1	11	5	30
スーパーヴィジョン	2		3		1	2	1						9
コンサルテーション						1							1
合計	13	88	68	72	15	5	1	1	62	103	104	18	580

3) 高度専門職（臨床心理士）養成について

心のクリニックの教育・訓練機関としての役割

本学大学院文学研究科心理学専攻臨床心理学コースは、現在、臨床心理士第2種指定大学院（2006年4月から第1種指定大学院）であり、高い専門性を有する人材を育成することを目的として学内外あわせて多数の実習の機会を設けている。当クリニックはそのうちの1つであり、地域に開かれた相談機関であるとともに臨床心理士養成のための学内教育・訓練機関としての役割も兼ねている。したがって来談者に対しては、電話問い合わせやインテークの段階で十分にその点を説明し、「臨床心理士の指導のもとで大学院生が担当する場合もある」旨を了解してもらっている。

茨木市立障害福祉センター内の早期療育指導・相談室「すくすく教室」との連携による集団遊戯療法「にこにこ教室」では大学院生が子どものプレイセラピーを担当することになっているが、それ以外の個別ケースについては、インテーク後スタッフ間で検討し、来談者の得べきサービスと大学院生の教育・訓練とが両立するよう慎重に配慮をして継続担当者を選定している。以下に、大学院生の学内外での実習活動について記しておく。

臨床心理実習 学内実習について

①大学院1年次（M1）は、当クリニックで臨床心理基礎実習の授業として、次のようなことを行っている。

- ・フレイルームや相談室の整備および集団遊戯療法にセラピストとして参加

- ・ 集団遊戯療法「にこにこ教室」および保護者グループへの参加

発達上の問題を持つ幼児のために行なっている集団遊戯療法「にこにこ教室」では、一人の院生が同一の幼児をセラピストとして担当し、10セッションで終結とする子どもの遊戯療法と、保護者グループの集団カウンセリングには、院生がコ・セラピストとして順次参加している。

ここでは、実際にケースを担当することを通して、[インテーク→アセスメント→遊戯療法と保護者グループ→終結（アセスメントと利用者へのフィードバック）]という心理療法の一連の過程を経験する。さらに、毎回のセッション時に、[事前スタッフミーティング→セッション→事後スタッフミーティング→記録]の体験も積み重ねていく。毎回終了後の事後スタッフミーティングにおいて、個々の心理療法的な関わりについて担当教員および相談員からスーパーヴァイズを受けている。

- ・ インテーク・カンファレンス

先に詳細を述べたインテーク・カンファレンスに参加することで、インテークについての理解を深めている。

- ・ ケース・カンファレンス

ケースカンファレンスに参加することを通して、ケース・プレゼンテーションの仕方や心理療法の過程、ケースに対する理解、心理臨床的援助の方法などを総合的に習得している。

②大学院2年次（M2）は、当クリニックで臨床心理実習の授業として、次のようなことを行っている。

- ・ フレイルームや相談室の整備および、集団遊戯療法「にこにこ教室」とその保護者グループへの参加

大学院1年次に担当したケースについて継続希望の場合には集団遊戯療法「にこにこ教室」の前半期（全10セッション）および後半期（全10セッション）において、子どもの遊戯療法のセラピストおよび保護者グループにおけるコ・セラピストを分担して担当している。

内容については、1年次よりはさらに主体的な判断・行動と高い心理療法的態度・技術が求められる。

- ・ 個別ケース

M2では、個別のケースも担当している。今期は主に、発達や情緒面の問題をもった幼児から小学生のプレイセラピーを担当することが多かった。毎回カウンセリング終了後、後述するスーパーヴィジョンに加えて、毎回のセッション終了後に親面接を担当している臨床心理士からもスーパーヴァイズを受けている。

- ・ インテーク・カンファレンス

先に詳細を述べたインテーク・カンファレンスに参加し、インテークについての理解を深めている。M2の場合は、自身が担当するケースについて検討される場合も多いので、発言を求められる機会が増える。

- ・ ケース・カンファレンス

ケースを担当し始めると、順次ケースカンファレンスを開き、1回あたり約90分をかけて検討を行っている。この際、「臨床心理実習」担当教員だけでなく、可能な限り、他教員や非常勤相談員も参加し、いろいろな視点や立場からのコメントが受けられるようにしている。

・スーパーヴィジョン

M2は1週間に2コマ、集団でケース・スーパーヴィジョンを受けている。これは、実際の心理療法場面を録画した資料をふり返りながら行う緻密なスーパーヴィジョンである。

臨床心理実習 学外施設での実習活動について

臨床心理実習担当教員：樋口勝也 倉戸由紀子 阿津川令子

学外施設担当臨床心理士：小川万希子 沖田靖章 白山真知子 利根川雅弘 増子高通
宮本孝子 永井享 安本淳

1. 長期実習

(1) 施設名：茨木市教育研究所

臨床心理士：沖田靖章

所在地：茨木市駅前4丁目6-16

期間：2005年4月から2006年3月、毎火曜日9:00から17:00

(1日8時間×45週、約360時間)

実習者数：2名

実習内容：小学生から中学生の不登校、発達障害の児童生徒への訪問面接、発達相談、個人面接、適性指導教室における集団遊戯療法とその後のケースカンファレンスへの出席およびスーパービジョンを受ける。

(2) 施設名：摂津市保健福祉部こども育成課摂津市家庭児童相談室

臨床心理士：白山真知子

所在地：大阪府摂津市千里丘東1-16-2

大阪府摂津市鳥飼2-1-4

期間：2005年4月から2006年3月、毎週水あるいは木曜日

(1日8時間×45週、約360時間)

実習者数：2名

実習内容：母子同室の集団遊戯療法（くまさん教室：良好な母子関係を促進するグループ、対象は幼児）と母子分離を行なう集団遊戯療法（自閉傾向のある幼児のグループ）、その後ケースカンファレンスに参加、および個別の遊戯療法、カウンセリング、新版K式発達検査の実施。個別のケースについては毎回後のスーパービジョンと適宜開催のケースカンファレンスにて指導を受ける。

(3) 施設名：豊中市立子育て支援センター「ほっぺ」

臨床心理士：小川万希子

所在地：大阪府豊中市桜塚3-1-1

期間：2005年4月から9月、10月から3月、毎週木曜日9:30から17:30

(1日8時間×45週、約360時間)

実習者数：1名

実習内容：母子同室の集団遊戯療法（1才児グループ、2才児グループ：軽い言語発達

の遅れ)と母親グループと、その後のケースカンファレンスに参加。個別の遊戯療法(被虐待の疑いのある幼児、発達の遅れ、情緒面の問題のある幼児)と、毎回後にスーパービジョンを受ける。その他、虐待に関する研修会への参加。
発達検査とその後のスーパービジョンとケースカンファレンスをする。

(4) 施設名：医療法人北斗会さわ病院(総合病院精神科)

臨床心理士：増子高通

所在地：大阪府豊中市城山町1-9-1

期間：2005年4月から2006年3月、毎週火曜日8:30から16:30

(1日8時間×45週360時間)

実習者数：2名

実習内容：精神科において予診の陪席の後、実際に予診を実施し(20才から91才：統合失調症、統合失調症圏、うつ病、アルコール依存症、神経症圏等)、毎回後スーパービジョンを受ける。通院・入院カルテを読み込み、ケースカンファレンスに参加することで、精神障害者について理解を深め、多職種の協働とチーム医療の実際を知る。デイ・ケアにおける集団療法(20歳代から70歳代：統合失調症圏通所患者)のなかで、スタッフの一員として精神科リハビリテーションに携わる。心理検査(小精神的疾患の患者に対して、WAIS-R、ロールシャッハテスト、バウムテスト、MPI)を実施し、その後スーパービジョン(実施の方法、検査の分析方法と報告書作成の仕方について)を受ける。

(5) 財団法人復光会垂水病院(精神病院)

臨床心理士：利根川雅弘

所在地：神戸市西区押部谷西盛566

期間：2005年4月から9月、10月から3月、毎週火曜日8:45から16:45

(1日8時間×45週、約360時間)

実習者数：2名

実習内容：アルコール・薬物依存症についての研修を受け、院内治療・リハビリテーションプログラム(病棟グループ)酒害教室、AAメッセージ(アルコール・薬物依存症の院内治療プログラム)アルコール・薬物依存症の入院および通院患者30歳代から80歳代)とその後のケースカンファレンスに参加する。入院患者に対する個別面接をし、毎回後スーパービジョンを受ける。統合失調症圏患者入院集団精神療法(統合失調症圏入院患者30歳代から70歳代)にコ・リーダーとして参加し、その後スタッフ・カンファレンスを受ける。個別に心理検査(ロールシャッハテスト、WAIS-R)を実施し、その後の指導(実施の方法、検査の分析方法と報告書作成の仕方について)を受ける。

(6) 施設名：社会福祉法人大阪府衛生会希望の杜(情緒障害児短期治療施設)

臨床心理士：永井 亨

所在地：大阪府高槻市大字奈佐原955

期間：2005年4月から2006年3月、毎週火曜日9:00から18:00

(1日9時間×45週、約409時間)

実習者数：4名(半期2名ずつ)

実習内容：主として被虐待児の個別遊戯療法(被虐待の小学生から中学生)、集団療法(被虐待、保護者蒸発等による養育放棄の小学生から高校生)への参加、その後のケースカンファレンスとスーパービジョンおよび施設内学級での心理的サポート、被虐待児のケアについての研修を行なう。

(7) 施設名：安本学園臨床心理研究所

臨床心理士：安本 淳

所在地：京都市伏見区深草鞍ヶ谷1

期間：2005年4月から2006年3月、毎週木曜日9：00から16：00

(1日7時間×45週、約315時間)

実習者数：2名

実習内容：心理検査(Y-G、CMI、HTP)によって自己分析をして心理臨床家としての基礎を形成する。クライアントに実施した各種心理検査(Y-G、CMI、HTP、バウム等)の解釈の仕方についての心理査定の実習をする。実際のケースについて対象者の情緒の問題、不登校、心身症、燃え尽き症候群など幼児から60歳代に心理検査を実施、その後、結果の処理、解釈や所見の書き方についての指導とスーパービジョンを受ける。安本療法である情緒安定訓練とコスモ訓練についての説明を受けた後に実践を行なう。また、不登校児対象のカウンセリングにコ・セラピストとして参加しその後、スーパービジョンを受け、ケース検討を行なう。

2. 心理査定実習

(1) 実習施設：社会福祉法人桃花塾(知的障害児・者施設、知的障害者更生施設)

臨床心理士：宮本孝子

所在地：大阪府富田林市大字喜志206

期間：2006年2月10日から11日、1日約5時間

実習者数：11名

実習内容：事前研修として11月から12月にかけて新版K式発達検査を実践現場で用いるため、より詳細な実施方法の習得を目指し(第2葉から第6葉までのロールプレイも含む)、実際に知的障害児・者に発達検査を行う際の心得と観察のポイントなどを指導する。

施設では、知的障害児・者およびその更生施設についての現況の研修を受けた後、13から50歳の入所者を対象に1人2ケースずつ新版K式発達検査を実施、結果の処理と判定終了後、スーパービジョンを受け、検査報告書を作成し、レポートとして提出する。事後研修：それぞれが検査を行なった知的障害児・者についての理解をさらに深められるようにカンファレンスを持つ。

3. 短期病院実習

(1) 医療法人北斗会さわか病院(総合病院精神科)

臨床心理士：増子高通

日時：2005年6月23日、13：00から17：00（4時間）

実習内容：急性期精神医療と精神障害者リハビリテーションシステムを備える病院の概要、地域における精神病院のあり方についての研修の後、病院内（病棟・デイケア）や通所授産施設、グループホーム、福祉工場などで実習（統合失調症圏やうつ病の患者と医療的に関わる体験）。終了後、全施設に関する質疑応答と、医療機関における臨床心理士の役割についての研修を受け、レポートを提出する。

(2) 財団法人復光会垂水病院（精神病院）

臨床心理士：利根川雅弘

日時：2005年5月19日、14：00から17：00（3時間）

実習内容：主に中・高年のアルコール・薬物依存症と統合失調症治療が中心の単科精神病院（病棟、外来、デイケア）の概要、各治療プログラムについての説明を受けた後で、病棟内にて実習（病棟内治療プログラムにて、アルコール・薬物依存症や統合失調症患者と治療的に関わりをもつ体験）。終了後、全施設に関する質疑応答と、医療機関における臨床心理士の役割についての研修を受け、レポートを提出する。

2. 臨床心理学コース開講科目一覧表 (2005年度)

履修区分	授業科目	単位	担当者	配当年次	備考	
必修	臨床心理学コース演習Ⅰ	2	小花和昭介 教授 樋口勝也 教授 井上知了 教授 倉戸由紀子 教授 三川俊樹 教授 辻 潔 助教授	1年次	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理学コース演習Ⅱ A 同 B 同 C 同 D 同 E	2	井上知子 教授 小花和昭介 教授 樋口勝也 教授 倉戸由紀子 教授 三川俊樹 教授	2年次	臨床心理学コース専攻生で、 臨床心理学コース演習Ⅰを習得した者のみ	
選択	臨床心理学特論	4	倉戸由紀子 教授	1年次以上	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理面接特論	4	倉戸由紀子 教授 三川俊樹 講師 永野浩二 講師 田中徳子 講師	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	人格心理学特論	2	井上知子 教授	同	後期	
	犯罪心理学特論	2	松野凱典 講師	同	後期	
	臨床心理関連行政論	2	田中耕二郎 教授	同	後期	
	精神医学特論	2	池澤浩二 講師	同	後期	
	障害者(児)心理学特論	2	近藤文甲 講師	同	前期集中	
	投映法特論	2	佐方哲彦 講師	同	前期 心理学専攻生のみ	
	心理療法特論(一)	2	佐方哲彦 講師	同	後期 心理学専攻生のみ	
	心理療法特論(二)	2	久野能弘 講師	同	前期集中 心理学専攻生のみ	
	学校臨床心理学特論(一)	2	倉戸由紀子 教授	同	後期 臨床心理士資格対応	
	学校臨床心理学特論(二)	2	三川俊樹 教授	同	前期 学校心理学資格対応	
	以上の講義科目から、5科目以上12単位以上を修得すること。					
	必修	臨床心理査定演習	4	小花和昭介 教授 樋口勝也 教授 井上知子 教授 辻 潔 助教授	1年次以上	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ
臨床心理基礎実習		2	辻 潔 助教授 永野浩二 講師 菊池正 講師 宮本孝子 講師	1年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
臨床心理実習		2	倉戸由紀子 教授 樋口勝也 教授 阿津川令子 助教授 永井雅弘 講師 利根川淳 講師 安本高 講師 増子高通 講師 宮本孝子 講師	2年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生で、 臨床心理基礎実習を修得した者のみ	
心理療法実習		2	倉戸ヨシヤ 講師	2年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生で、 臨床心理基礎実習を修得した者のみ	
以上の演習・実習科目から、1科目以上2単位以上を修得すること。						
選択	認知心理学特論	2	石王敦子 助教授	1年次以上	後期	
	生理心理学特論	2	投石保広 講師	同	後期	
	大脳生理学特論	2	投石保広 講師	同	前期	
	教育心理学特論	2	三川俊樹 教授	同	後期	
	発達心理学特論	2	河合優午 講師	同	後期	
	社会心理学特論	2	広沢俊宗 講師	同	前期	
	心理学研究法特論(一)	2	落合正行 教授	同	前期	
	心理学研究法特論(二)	2	加藤徹 教授	同	後期	
	心理統計法特論	2	東正訓 助教授	同	前期	
	認知心理学演習	2	石王敦子 助教授	同		
教育心理学演習	2	田中俊也 講師	同			
発達心理学演習	2	河合優午 講師	同			
社会心理学演習	2	藤本忠明 教授	同	交通心理学を含む		

上記の必修科目、選択必修科目および演習科目を含めて、講義24単位以上、演習・実習6単位以上、合計30単位以上を修得すること。

4. 追手門学院大学地域支援心理研究センター 附属「心のクリニック」紀要編集規程

(趣旨)

第1条 この規程は、追手門学院大学地域支援心理研究センター（以下「センター」という。）規程第13条に基づき、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要（以下「紀要」という。）の編集の基本的事項等について定める。

(目的)

第2条 紀要は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」（以下「心のクリニック」という。）の研究成果の発表を目的として、これを刊行する。

(編集委員会)

第3条 紀要の企画、原稿の募集及び編集は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が行い、発行は心のクリニックが行う。

- 2 委員会に編集委員長を置き、心のクリニック室長がこれにあたる。
- 3 委員会に編集委員を置き、心のクリニック相談員の中から選出された者2名がこれにあたる。

(執筆者の資格)

第4条 執筆の資格を有する者は次の各号に掲げる者とし、執筆は投稿とする。

- (1) 心のクリニックの構成員（室長、相談員、非常勤相談員、事務職員、研修相談員。）に限る。ただし、依頼原稿、資料及び特集についてはこの限りではない。
- (2) 院生相談員が投稿する場合は、指導教員を通して論文を委員会に投稿し、審査の結果、論文の採否を決定する。

(原稿の要件)

第5条 紀要に執筆する原稿の要件は、次の各号のとおりとする。

- (1) 他紙に未発表の原著論文等であること。（口頭発表、研究会等での発表を除く。）
- (2) 完成原稿であること。

(原稿の採択)

第6条 執筆原稿の掲載については、委員会において決定する。

(紀要の発行)

第7条 紀要は、年1回の発行とし、毎年原稿募集締切日は9月末日、執筆期限は10月末日、発行日は12月末日とする。

(原稿の形式)

第8条 紀要に執筆する原稿の形式は、委員会が別に定める「地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要執筆要項」によるものとする。

(校正)

第9条 校正は著者校正とし、校正期限を遵守し、校正時に大幅な訂正を行わないこととする。
2 執筆者が前項の規定に反した場合、第6条の規定を準用する。

(抜刷)

第10条 抜刷は、論文ごとに50部を贈呈し、増刷分の費用は申し込み者の負担とする。

(著作権)

第11条 紀要に掲載された論文の著作権は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」に帰属するものとする。

(ホームページへの掲載)

第12条 紀要に掲載された論文の中で個人情報保護の観点から考えて適切と思われる論文は、センターのホームページへ掲載するものとする。

(所管)

第13条 この規程の紀要の発行に関する事務は、センター事務室において行う。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、センター運営委員会で行う。

附 則

この規程は、2006年4月1日から施行する。

5. 追手門学院大学地域支援心理研究センター 附属「心のクリニック」紀要執筆要項

追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」紀要編集規程第8条に則り、執筆原稿の形式を以下のように定める。

1. 原稿の構成

1) 掲載形態 (①②③)のいずれか)

- ① 論文
- ② 研究ノート
- ③ 書評・内外学会動向

2) タイトル

日本語と英語

3) 執筆者名、所属名、連携機関

4) 本文・注・文献 (仕上がりはA4判)

2. 原稿の提出方法

1) 「MS-Word」のファイル (サイズはA4判) をフロッピーディスクか電子メールに添付して送る。他の形式の場合は事務局へ問い合わせのこと。

2) ハードコピーも3部提出。(サイズはA4判)

3) 原稿は完全原稿とする。(※提出された原稿がそのまま印刷される。)

3. 表記

1) 字体

【本文】日本語：MS明朝体11ポイント

外国語：Times New Roman 11ポイント

【見出し】原則としてMS明朝体 (強調文字) 14ポイント

副題：MS明朝体 (強調文字) 12ポイント

【注・参考文献】日本語：MS明朝体11ポイント

外国語：Times New Roman 11ポイント

2) 文中の表記

句読点は、原則として「、|」を使用し、新字、新カナを使用のこと。

また、ヨコ2段組みのため、句読点、カッコ、コロンの表記となる。

3) 用字用語、表記の統一

原則として、用字用語の統一は行わないので、各自で原稿中の統一をはかること。詳細については、日本心理学会「執筆・投稿の手引 (改訂版)」に基づき執筆すること。

4) 日本人以外の人名表記

人名は、原語表記とする。

5) 西暦・和暦、数詞

半角アラビア数字を使用すること。

6) 引用文献の表記方法

和書、洋書を分けずに、著者のアルファベット順に記載すること。

7) 論文中の写真・図形・表について

採用時には単独の形式で用意すること。

① 写真：

デジタルカメラで撮影したものであれば、解像度350DPI以上のオリジナル写真。
データを標準的な画像フォーマット (JPEG) のファイルとして、またアナログ写真で撮影されたものであれば、紙焼きの形で用意のこと。

② 線画 (線で構成されたグラフィックス)：

作画したオリジナルのCGソフトからEPS (Encapsulated Post Script) 形式に変換したファイルを用意すること。

③ 表組み：

スキャン画像ではなく、作表した際に使用したソフトのファイル形式で用意すること。

追手門学院大学 地域支援心理研究センター附属

心のクリニック紀要 第2号

発行年月 2005年12月
発行者 追手門学院大学地域支援心理研究センター附属
心のクリニック
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2丁目1番15号
TEL 072 (643) 9439 FAX 072 (643) 5790
E-mail : clinic-pres@jimu.otemon.ac.jp
制作 (株)紀伊國屋書店